

インカレ本戦！目標達成！！

KUYC LETTERZINE



京都大学体育会ヨット部 活動報告

□インカレ本戦 □部員インタビュー □BBマリンカップ □新主将あいさつ

2022.12.15

[Vol.0028]



凱旋する選手達。悲願の目標達成の感動で選手の目には、嬉し涙が光った。

インカレ本戦！悲願の総合3位入賞！！ @琵琶湖

お世話になっております。87代主将を務めました、南野仁です。11/2(水)から11/6(日)にかけて柳が崎ヨットハーバーにて行われた全日本学生ヨット選手権大会について報告させていただきます。

今年度の目標は「総合3位」でした。地元開催ということで大会前から期待が膨らんでいました。初日は北風の軽風で2レース消化しました。470級は3艇とも無難にまとめ入賞圏内からのスタートとなりました。逆にスナイプ級は7位となりましたが、上位とは僅差で翌日以降に期待がかかりました。総合は6位でした。迎えた2日目、シリーズ通して1番良い風が入る予報であり、勝負の1日と捉えて臨みました。西よりのシフトの激しいのコンディションで、途中のノーレースになることもありましたが、470は5レース、スナイプは4レース消化しました。470級は苦手な強風で耐え、5位と一つ順位を上げ、スナイプ級は得意の強風で4位まで順位を上げました。2日目終了時点で総合3位となりました。横文字をつけなかったことも順位に大きく影響しました。3日目は風待ちから始まり、北風の微風で2レース行いました。各クラス粘り強く走りましたがレース終了時総合では4位に落ちてしまいました。その後審問の結果でもう一度3位に入りました。翌日はノーレース濃厚の予報でしたので、理想の形をつくれしました。4日目、沖で長い間風待ちしましたが、リミットにより大会が終了しました。京大は目標である総合3位を達成し、旗をあげてハーバーバックしました。決して楽な道のりではありませんでしたが、最後に仲間と喜びを分かち合うことができ良かったです。マネージャー、サポートメンバー、そして応援して下さったOBOG、保護者の皆様含め一丸となり全員で戦ったからこそ、国公立40年振りの快挙を達成できたと思います。本当にありがとうございました。OBOGの皆様におかれましては、来年以降も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

インカレ本戦 @琵琶湖



沖から逐一風の情報を送り続けた
沖サポートチーム。

沖サポート編

87代スナイプスキッパーの鈴木慎二郎です。今回のインカレでは沖の支援艇、観覧艇も総動員して、風の情報やレースの展開などをヨット上の選手に逐一伝えていました。また審問に強く出れるようマーク回航周辺の動画を撮る役目もこなすなど、選手に少しでもレースに集中出来るよう全力を尽くしました。特に他校のペナルティ不履行をしっかりと見ていたことが総合3位の決定打となり、今回の成績に貢献しました。

今回は各支援艇の役割分担も上手く行っており、スナイプの交代および風の分析担当のハードボート紫雲、レース全体を追いつながら470の交代を担当したラバーボート彩雲、そして自分が乗った、一上で待機し風やレース展開を観測する大津港のレンタルボート等、各々が役割を全うして全体を回していったように感じました。

ベストレース編

第87代スナイプクルーの原田です。インカレ期間中の記憶があまりない自分が唯一鮮明に覚えているレースは第4Rです。この日は特に不安定なコンディションで僕たちは左右に自信がなかったので真ん中からスタートする事にしました。大分高くスタートし、少し怪しいなという印象でした。しかしスタートしてから考えても仕方ないと思い忘れる事にしました。振れに合わせながら走り上マークを迎えようとシングルに京大3艇が揃ってました！その後全員がシングルをキープしながら2下レグを迎えました。2下の途中で1位まで上げる事ができた時、リコールのことを思い出しました。トップホーンがならなかったら、と思いながらフィニッシュラインを切るとちゃんとトップホーンが鳴ってくれました。喜びよりも安堵の気持ちの方が大きかったです。そして他の2艇もしっかりシングルでフィニッシュしようやく喜びが湧いてきました。見事1-3-6という会心のレースになりました。4年間で一番嬉しかったレースです。本当にリコールしてなくて良かったです。



1-3-6フィニッシュを決めたレース。
陸沖問わず全員が沸いた。



学連の中核となって、みんなをまとめてくれた
中平さん本当にお疲れさまでした。

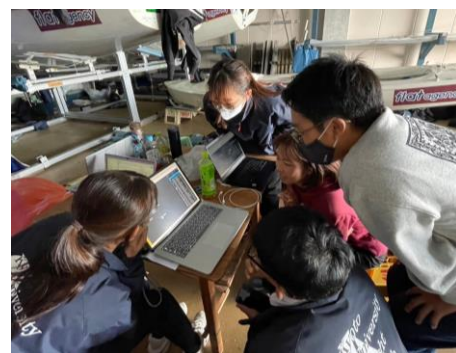
学連編

お世話になっております。87代の中平幸輝です。実は学連にとってのインカレはまだ終わっていません。今日もインカレの報告資料の作成のため、エクセルの数字をただず作業に追われていました。誠に引退したい。

私の担当は宿泊、交通費、駐車場、昼食でした。仕事は大会関係者の人数に比例して重くなります。今大会は100人程度でしたが、それだけの人数となると例外的な事象が多く発生し仕事量は膨大でした。またそれだけのボランティアが集い、インカレが成立しているということには感謝しなければいけないと実感しました。最後に仕事を手伝ってくれた後輩たち、ありがとう！

陸サポート編

88代スナイプスキッパーの稲波智子です。インカレの陸サポートは、出着艇申告など沢山の手続きにミスがないかを確認、大量に送られる動画を整理し、着順が分かれば瞬時に成績を計算する傍ら、SNSを用いての外部への情報発信も怠りませんでした。沖に出ないため結果に直接貢献しているとは実感しにくいですが、4位と7点差という数字は、陸の仕事のミス一つで順位がひっくり返り得たことを意味します。皆とは離れて大会運営の職務を全うした学連の人々の存在も忘れてはなりません。こうした仕事以外には、出艇までレースメンバーと談笑したり、屋上からレースを遠目に観戦したり、TracTracでの実況中継に一喜一憂したり。沖との距離は感じないように思いました。陸サポートの大半は下級生で、次のインカレでは自分が沖に出て活躍するぞ！との闘志を感じました。



TracTracに釘付けで応援する陸サポート
チーム。審問の証拠もたくさん集めました。

日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。今回は後輩の憧れとなっている88代のクルー二人です。470からは保家大将(3)、スナイブからは堀内亮(3)へのインタビューです。



スナイブ クルー

堀内 亮

2002年千葉生まれ。千葉県立千葉高等学校の卓球部出身。工学部物理工学科。核心を見抜いた部員のモノマネの上手さで同期からも、後輩からも、親しまれている。圧倒的な動作の上手さ、確実なコース引きは後輩からの憧れの的となっている。最近味のついたご飯を食べるようになったらしい。

Q.これまでの部活を振り返って

A.コロナ禍で入部し、1回生としてスナイブに乗る時間が少なく、1つ、2つ上の先輩たちが自分より遥かに上手に見えていたので自分も1年後、2年後に先輩たちのように上手になれるのか不安に思いながら過ごしていました。しかし最近になってようやくヨットに乗っている自分を客観視できるようになり、自分の成長を実感できるようになりました。また、直近のレースでは今まで余裕がなくてできなかった、楽しくヨットに乗ることができるようになりました。

Q.思い出のレース

A.2回生の頃に同期の鈴木優志と29062で出場した新人戦の最終レースです。レース展開は右くの字のコースを走っていたら極端に右に振れた結果9位でフィニッシュできたという典型的な博打コースなのですが、どんなレースでも常に下位1/4ほどを走っていた当時の自分にとって初めてシングルを取れたのがとても嬉しく、思い出に残っています。この9位という順位は約1年後に再び優志とのペアで走ったレースに塗り替えられるまで、長らく自己最高順位であり続けました。

Q.最近のペアについて

A.交代した直後はあまり固定されたペアがいなかったのですが、交代前のペアである87代の北川柚葉さんについて書きたいと思います。初めは引退直前の先輩と一緒に乗るということで自分自身が足を引っ張らないかと不安でしたが、日々の練習でベストを尽くし、レースメンバーたちに食らいついていこうと思いながらインカレまでの期間過ごしていました。柚葉さんの徹底した帆走・動作の指導により短い期間でクルーとして大きく成長することができたと、今になって感じています。



ペアの柚葉さんとの一枚団体戦本戦後感極まる二人にペア愛を感じざるを得なかった。



470 クルー

保家 大将

2001年京都生まれ。京都府立洛北高等学校テニス部出身。理学部理学科。ホッケの愛称、その気さくな性格で先輩後輩問わず親しまれている。そのアクロバティックな動作は見るものすべてを魅了する。後輩からは、その言語化の上手さから質問が途切れることはない。

Q.これまでの部活を振り返って

A.ただヨットを走らせるためだけにがむしゃらにやってきたなあというのが僕のこれまでだと自分で思います。入部当初やクラス分け当初はまずヨットでどうしたら動くんだろう、どうやったら上手く出来るんだろうの一心で、基礎が出来てからはどうしたら速く走れるんだろう、どうやったら気持ちのいい走りが出来るのだろうか、それを考え続けてきました。他者の視線にはどう映るかは分かりませんが自分としてはひたむきにヨットをどう走らせるのかを考えてきたなと思います。

Q.思い出のレース

A.今年の7月末に行われた関東フリートです。このフリートでは1日目が強風、2日目が軽風といった幅広いコンディションでのレースとなりました。87代の中村氏とのペアとして出させてもらいましたが、特に1日目の強風でのレースが強く印象に残っております。この時僕は海での強風がまさに2日目といったほどの初心者で前後トリムもままならないというレベルでした。そのような中で中村氏の指導でレース中にもその上達を自分でも実感できたことが特に嬉しかったこととして印象に残っています。

Q.これから1年間の目標

A.後悔をしないようにする、ということです。今までの自分は、例えば部活動といったように限られた時間の中で精一杯頑張るといってこなした人間でした。中学も高校も終わっていき振り返るともうちょい出来た気がする、という歯切れの悪い終わり方ばかりをしてきました。そのためこの大学生活の有終の美を飾るべく、インカレが終わった時に「入部してからこの今までちゃんと頑張った。」と言えるようにしたいです。



87代中村氏と乗る保家さん彼のスピントリムは後輩の憧れである

新主将挨拶

平素よりお世話になっております。88代主将を務めさせていただきます、470クルーの石橋和樹です。
今年の目標は「全日本インカレ総合3位」です。前年度は本拠地琵琶湖での開催ということにも味方され、全日本インカレ総合3位という目標を達成しました。今年の全日本インカレは九州の小戸で行われます。近年苦戦している海での3位を実現し、京都大学ヨット部が真の強豪であることを示します。
近年部員数の増加で、益々発展している京大ヨット部ですが、さらなる飛躍のための土台作りを今年1年のテーマに掲げます。
恒常的に勝てるチーム、京大ヨット部をよりイケてるチームにするために、皆様への感謝を忘れず、部員一同駆け抜けますので今後ともよろしくお願いたします。



新チーム主将の石橋さん。誰よりも熱い、その背中でチームを牽引してくれること間違いなし。

B.B.マリンカップ@琵琶湖

お世話になっております、89代スナイプスキッパーの峰岡拓真です。私からは、10月29～30日に行われた、BBマリンカップについて書かせていただきたいと思っております。大会の概要につきましては、ブログをお読みいただくと幸いです。
この大会は、インカレのスタメンを決める重要なレースでした。ペアの永富先輩と5番艇として組み始めてから2ヶ月経ち、最初は歯が立たなかった3、4番艇に徐々に追いつけていることを実感していたこともあり、インカレに出場するためにかなり意気込んで臨みました。結果、1レース目からまさかのリコール。2、3レース目も苦手な強風の中思うように結果が残せませんでした。普段レース結果にはあまり落ち込まないタイプの私ですが、この日は流石に心に刺さるものがありました。今日こそはと沖に出た2日目。1レースしかありませんでしたが、このレースだけでなんと15艇を超えるリコールが発生。前日の反省を生かし、無難なスタートを決めた私たちは、途中まで芳しくなかったものの、第3レグでこれ以上ないほどにコースを当て、13位フィニッシュ。結局このレースが私にとっての87代最後のレースとなりました。
悔しさが残る結果となりましたが、私たち下級生にとってはなかなか体験できない規模のレースであり、88代以降に間違いなく繋がる経験ができました。この経験をもとに、交代後も突っ走っていきます。何卒、変わらぬご支援をよろしくお願いたします。



琵琶湖恒例の大連結!
迅速なレスキューには感謝しかありません。

四回生これからの進路

87代の永富優希です。私は来春から興味があった教育業界へ就職する予定です。ヨット部で学んだことを糧に社会に貢献していきたいと思っています。京大ヨット部への直接の関わりは無くなりますが陰ながら応援しています。



お二人とも素敵な笑顔ありがとうございます。
これからのご活躍をお祈りしています。



前代ではお世話になりました。87代の中村です。今後の進路について報告させていただきます。私は春から京都大学の大学院に進学予定です。研究という新たに熱中できるものが出来たので、また一から頑張っていこうと思います。

レスキュー便り

プレイヤー以上に情熱あふれるマネージャーたちの活動や思いについて紹介します。

《マネージャー近況報告》

初めまして！お世話になっております。90代マネージャーの高橋香琳です。今回は軽い自己紹介をさせていただきます。京都女子大学の食物栄養学科で栄養の勉強をしています。風景や空、人物の写真を撮るのが好きで、部活中も良い瞬間があればよく写真を撮っています。それを活かして、部活中の良い瞬間を一枚一枚残していけたらなと思っています。
11月中旬に大学からマネージャーの参加が認められました。本当に嬉しい気持ちで胸がいっぱいです。この半年間で経験したきたことを糧に、これからもサポートしていきます！



1回生マネージャー
高橋 香琳


京都大学体育会ヨット部

滋賀県大津市鏡が浜番外地
京大ヨット部艇庫

[tel] 077-525-0312
[hp] <https://www.kuyc-home.com/>
[mail] kuyc.2013@gmail.com

 <https://twitter.com/kuyc>

 https://www.facebook.com/kyoto_sailing/?fref=ts

 https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja